

## 四季成り性いちご品種‘なつあかり’を用いた2年栽培作型

### 【1 成果の内容】

- (1) ‘なつあかり’を用いた2年栽培は、3月中旬に定植し、翌々年2月まで継続収穫する作型です（図1）。
- (2) 栽培の開始を1年ずらす隔年定植により、親株・育苗ハウスの設置費・面積・苗代および育苗労力を半減することができ、規模拡大が可能です（図2）
- (3) 電照を利用した日長処理による出蕾制御や、クラウン温度制御を導入することにより（図1）、商品果収量は通期12.8t/10a（年換算で6.4t/10a）が得られます（表1）。
- (4) 個別経営体（基幹従事者2名+雇用4名）を想定した場合、40a規模まで拡大可能で2年目以降の粗収益は3,663万円、利益は552万円になります（表2）。

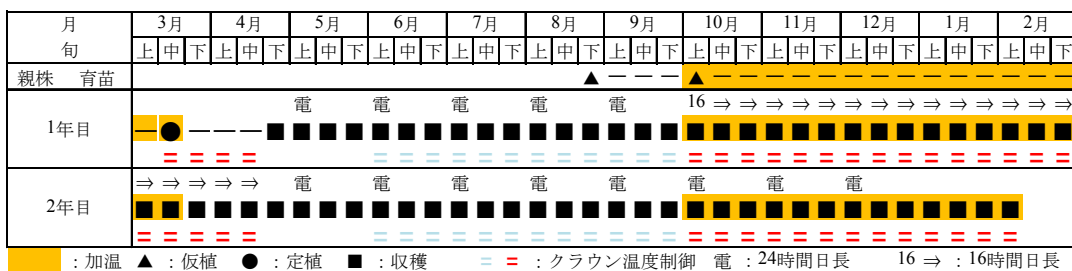


図1 2年栽培作型

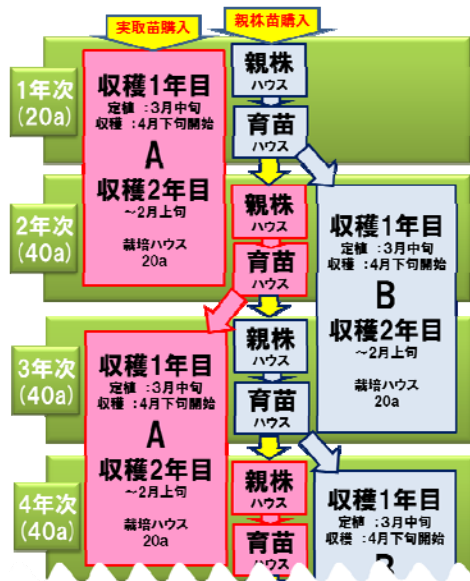


図2 栽培面積40a規模で基幹労働2名+雇用4名の時の規模拡大モデル

表1 クラウン温度制御が年別収量に与える影響

クラウン温度制御	総収量 (t/10a)		商品果収量* (t/10a)		
	有	増加%	有	増加%	無
1年目	6.52	(25.9)	5.18	5.59 (21.3)	4.61
2年目**	9.51	(17.0)	8.17	7.21 (11.1)	6.49
合計	16.03	(20.0)	13.35	12.80 (15.3)	11.10

\*2g未満、規格外果を除く \*\*推定値含

表2 20a⇒40a規模拡大モデルの収益性

	1年目	2年目以降
1 粗収益 (千円)	15,002	36,634
10a収量 (kg)	5,245	6,405
販売単価 (円/kg)	1,430	1,430
2 経営費合計 (千円)	17,608	31,107
変動費	10,659	17,245
うち労働費(雇用)	662	3,611
固定費(減価償却費)	6,948	13,862
3 所得 (千円)	-2,607	5,526
4 労働時間 (時間)	4,730	10,597
うち雇用	894	4,873

### 【2 留意事項】

- (1) 固定費（減価償却費）は木骨ハウス、育苗および親株用ハウス、温風暖房機、複合環境制御装置およびクラウン温度制御装置等を含みます。
- (2) 販売単価は、実証圃から収穫した生産物を、産直、個人販売した実績値を用いています。
- (3) 病虫害防除体系は、栽培期間通期で1作とするため、薬剤の使用回数を超えないよう留意が必要です。
- (4) 本作型は、夏季冷涼かつ冬季日射量を確保できる沿岸地域を想定しており、内陸部での栽培は検討が必要です。

担当研究室 技術部 南部園芸研究室

〒029-2206 岩手県陸前高田市米崎町字川崎 238-4 TEL. 0192-55-3733 FAX. 0192-55-2093